

ココから元気の出る歌集

春の歌 愛唱歌 あなたにエール!!



城直美 編

高島平ココからステーション 監修

2020 年 4 月

おぼろ月夜

大正三年

高野辰之作詞 岡野貞一作曲

1 菜の花畠に 入日はなばたけうすれ

見わたす 山の端 は 霞ふかし かすみ

春風そよふく 空を見れば

夕月かかりて におい淡し

2 里わの火影も 森の色も ほかげ

田中の小路を こみち たどる人も

蛙かわずのなくねも かす かねの音も

さながら霞める かす おぼろ月夜

◆おぼろ月夜

長野県の飯山市や中野市などを含む北信地方
一帯は江戸時代から換金作物の菜種栽培が盛
んで、春には一面の菜の花畑が広がっていて、中
野村（現中野市）に生まれた高野がその光景を、
おぼろ月夜のモチーフにしたと想定されます。

昭和二十三年から小学校六年生の音楽教科書
に採用され、季節の愛唱歌として親しまれ平成
以降も取り上げられています。

詩は1番2番とも韻を踏み、

各行4+4+3+3音で構成されています。

なのはな ばたけに いりひ うすれ

みわたす やまのは かすみ ふかし

というように。

特に2番の、もの音の繰り返しが印象的で音楽
的にも、よくできている部分です。

初めの2行に視覚的な描写を置き、第3行で肌
や耳から感じ取ったものに広がり、最後の1行で
締めていて、起承転結になっています。

高野辰之と岡野貞一は他に、もみじ、故郷、春
の小川、春が来た、を生み出し、まさにゴールド
ンコンビと言えます。鳥取生まれの岡野は熱心な
クリスチャンでオルガニスト。きれいなメロディを数
多く生み出しているほか、校歌の作曲も多く手
掛けています。

茶摘み

明治四十五年

1 夏も近づく 八十八夜

野にも山にも 若葉がしげる

「あれに見えるは

茶摘みじゃないか

あかねだすきに すげ 菅のかさ」

2 日よりつづきの 今日この頃を

心のどかに 摘みつつ歌う

「摘めよ摘め摘め

摘まねばならぬ

つまにや 日本の 茶にならぬ」



◆茶摘み

作詞作曲者共に不詳の唱歌。初夏の茶摘みの光景を歌っています。日本民謡の旋律が一部に取り入れられていることも、親しみやすさに繋がっているでしょう。お茶屋さんの店先に、新茶入りましたと掲示される頃になると、自然とメロディが浮かんできますね。

子どもの頃に2人組で向かい合って、せつせつせーのよいよいい で始まる手遊びを、誰しもが経験されたでしょう。この手遊びでの繰り返し動作は、茶葉を摘む手つきを真似たものとも言われています。

わかば

昭和十七年

松永宮生作詞 作曲平岡均之作曲

1 あざやかな みどりよ

明るい みどりよ

とりいをつつみ わらやをかくし

かおる かおる 若葉がかおる

2 さわやかな みどりよ

ゆたかな みどりよ

田畑をうずめ 野山をおおい

そよぐ そよぐ 若葉がそよぐ

◆わかば

初等科音楽(二)に掲載された唱歌。この時代に作られたものとしては戦争の色が全くない爽や

かな詩とメロディのため、戦後の教科書にも採用されました。日本の原風景をやさしい言葉で表現し、緩やかな前半、それに続く中間部はリズムカルな動きになり、かおる かおる(そよぐそよぐ)と印象的に歌い上げていきます。新緑の季節になると思わず口ずさみたくなる一曲、格調高いまさに名曲といえるでしょう。

散歩

昭和二十二年

勝承夫作詞 多梅稚作曲

1 若草^{わかぐさ}もえる 丘の道

心もはずみ 身もはずむ

小鳥のうたに さそわれて

わたしもいつか 歌い出す

2 小川の水も さらさらと

やさしい音を たてている

おもしろそうに 小山羊^{こやぎ}まで

わたしの歌を 聞いている

◆散歩

明治三十四年 散歩唱歌(春夏秋冬)に、50番という長い詩が付けられ発表されましたが、昭和二十二年五月発行の二年生の音楽で現在のタイトル、歌詞に改められました。いくら四季を歌うと言っても50番までは長すぎますね。一度聴いたらすぐに覚えられる、そしてうきうきと

して歌い出したくなるメロディ。若草もえる、と
始まり、なんとも平易な言葉の並びです。

一番、二番、それぞれに春から初夏にかけての
田舎道の、のどかな風景が目に見えます。

歌っているのは小学校低学年くらいの女の子でし
ょうか。小鳥さんも小山羊さんもみんな一緒に
うれしそうに弾んでいる様子が伝わってきます。
ハミングするだけでも思わず足踏みしたり体を
揺らしたりしたくなる、そんな一曲です。

緑のそよ風

昭和二十三年

清水かつら作詞 草川信作曲

1 緑のそよ風 いい日だね

ちようちよもひらひら 豆の花

なないろばたけに 妹の

つまみ菜^な 摘む手が かわいいな

2 緑のそよ風 いい日だね

ぶらんこ揺りましょ

歌いましょ

^{すばこ}巣箱の丸窓 ねんねどり

ときどき おつむが

のぞいてる

3 緑のそよ風 いい日だね

ボールがばんぽん ストライク

打たせりや二塁の すべり込み

セーフだ おでこの 汗をふく

◆緑のそよ風

春の光景を描いたのどかな歌詞と、明るく朗ら
かなメロディが特徴。ピアノの前奏部もメロディの
一節をアレンジしたもので、のびやかなそして弾
む気持ちを印象的に表しています。戦後発表さ
れ、新時代を象徴するような明るい曲調で現在
も人気が高い一曲です。

作詞の清水かつらは東京深川生まれの童謡詩人、
作曲家の弘田竜太郎とコンビを組んで大正時代
に、靴が鳴る、叱られて、雀の学校などを生み出
しました。作曲の草川は長野市出身、歌い継が
れ親しまれている童謡は数多く、主な作品は、ゆ
りかごのうた、夕焼小焼、どこかで春がなど。
東武東上本線成増駅前に、みどりのそよ風、靴
が鳴る、叱られての歌詞が刻まれた歌碑があり
ます。東京生まれの清水かつらは転居した成増
の地をこよなく愛していて、板橋区と和光市白
子地域には、まつわる碑が多く建てられています。

成増のまちや そこに住み人々を愛した
清水かつらは この地を舞台として
子どもの歌を 数多く作詞した…（以下略）
など。

高原列車は行く 昭和二十九年

丘灯至夫作詞 古関裕而作曲

歌 岡本敦郎

1 汽車の窓から ハンケチ振れば

まきば
牧場の乙女が 花束投げる

明るい青空 白樺林

山越え谷越え はるばると

ララ・・・

高原列車は ララ・・・ 行くよ

2 みどりの谷間に 山百合ゆれて

歌声ひびくよ 観光バスよ

君らの泊まりは 温泉いでゆの宿か

山越え谷越え はるばると

ララ・・・

高原列車は ララ・・・ 行くよ

3 峠を越えれば 夢見るような

五色ごしきの湖 飛び交う小鳥

汽笛も二人の しあわせ歌う

山越え谷越え はるばると

ララ・・・

高原列車は ララ・・・ 行くよ

◆高原列車は行く

作詞の丘灯至夫は福島県小野町生まれ。子ども時代から虚弱だったので、よく湯治に行っていたそうです。その時に乗ったのが、沼尻軽便鉄道（昭和四十四年に廃線）で、沿線の横向温泉の、特に滝川屋旅館がお気に入りだったとか。その頃の思い出を、この歌に書き記したと云われています。そうすると、2番の温泉（いでゆ）は横向温泉、3番の五色の湖は現在も観光地として有名な五色沼ということになるでしょう。一方、作曲の古関裕而がイメージしたのは、日本アルプスだったそうです。本州の中心を走る山脈のいずれかは、定かではありませんが。

丘が古関のメロディを初めて聴いた時、そのあまりの軽快さに、腰を抜かすほどびっくりしたと、後に述べています。屈託のない青春の歓びや楽しさをストレートに表現した流行歌として、今もシニア世代以降には人気のある一曲です。

丘は他にも、憧れの郵便馬車、大ヒットした青春歌謡舟木一夫の高校三年生を生み出しています。

作曲の古関裕而は明治四十二年に福島市の呉服店の長男として生まれました。現在放映中のNHK朝のテレビ小説（朝ドラ）エールは彼をモデルとしています。ここで古関の音楽人生を少しひも解いてみましょう。

鐘の鳴る丘(とんがり帽子)

昭和二十二年

菊田一夫作詞 古関裕而作曲

音楽好きの父の影響を受け、当時まだ珍しかった蓄音機で幼いころから西洋の曲を聴き、また近くの教会から聞こえる讃美歌の美しい響きも、洋楽へのあこがれを持つきっかけとなりました。小学校に上がつてからは作曲に興味をもち、どんどん音楽への気持ち広がっていき、小学校卒業の頃には、自由に楽譜が読めるようになり、正確に書けるようにもなっていたそうです。

商業高校を卒業後は銀行に勤めますが、常にハ―モニカを持ち歩き、ますます音楽に熱中し、独学で作曲の道を志すほどになっていました。

昭和四年には日本人として初めて国際コンクールに入選を果たし、これが転機となり翌年上京し、作曲家人生が始まりました。昭和六年早稲田大学応 援紺碧の空^二が一気に広がり一躍有名に。しかしその頃から軍歌の依頼が多くなったそうです。戦後は、音楽で世の中を明るくすること、に情熱を傾けました。夏の全国高校野球(夏の甲子園)の栄冠は君に輝く (云はわき 光あふれて…) や昭和三十九年のオリンピックマーチは実に勇壮で清潔感のある行進曲で、心躍る名曲として感動を呼びます。鐘の鳴る丘のトンがり帽子や長崎の鐘、君の名は、高原列車は行くなど、これらの流行歌は格調高い曲として、人々に愛され続けています。作曲数は五千曲に及びます。

1 緑の丘の 赤い屋根

とんがり帽子の 時計台

鐘が鳴ります キンコンカン

メーメーこやぎ小山羊が ないてます

風がそよそよ 丘の上

黄色いお窓は おいらの家よ

2 緑の丘の 麦畑

おいらが一人で いるときに

鐘が鳴ります キンコンカン

鳴る鳴る鐘は 父母のちはは

元気でいろよと 言う声よ

口笛吹いて おいらは元氣

3 とんがり帽子の 時計台

夜になったら 星が出る

鐘が鳴ります キンコンカン

おいらは帰る 屋根の下

父さん母さん いないけど

丘のあの窓 おいらの家よ

◆とんがり帽子

鐘の鳴る丘は、昭和二十二年七月から昭和二十五年十二月まで放送されたNHKラジオドラマ。とんがり帽子は共同生活の施設が丘の上にあり、とがった屋根の時計台に鐘を備えているというド라마の設定によるものです。ストーリーは、空襲により家も親も失った戦災孤児たちが街にあふれていた時代、復員してきた主人公の青年が孤児たちと知り合い、やがて信州の山里で共同生活を始め、明るく強く生きていくさまを描いたもの。青年の情熱と、次第に力を合わせてたくましく生きようとする子供たちの姿が多くの人共感を呼び、主題歌とともに、戦後早々の時期を代表する国民的ヒット番組となりました。

作詞の菊田一夫は、多くのヒットを生み出した劇作家で、君の名は、がめつい奴、がしんたれ、放浪記などで有名です。

※鐘の鳴る丘少年の家(群馬県前橋市)

昭和二十三年創立の青少年養護施設。自らも復員兵であった人物がドラマに感銘を受け、私財をなげうって創立。当初から菊田一夫の支援を受けており、鐘の鳴る丘を称しています。

昭和二十八年に現在の場所の時計台つきの建物に移り名実共に、鐘の鳴る丘となりました。

バラが咲いた

昭和四十一年

浜口庫之助作詞作曲

バラが咲いた バラが咲いた
真っ赤なバラが

さびしかった僕の庭に バラが咲いた
たった一つ咲いたバラ 小さなバラで
さびしかった僕の庭が 明るくなった

バラよ バラよ 小さなバラ

そのままですここに咲いてておくれ

バラが咲いた バラが咲いた
真っ赤なバラが

さびしかった僕の庭に バラが咲いた

バラが散った バラが散った
いつのまにか

僕の庭は前のようにさびしくなった
僕の庭バラは散ってしまったけれど

さびしかった僕の心に バラが咲いた

バラよ バラよ 心のバラ

いつまでもここで咲いてておくれ

バラが咲いた バラが咲いた
僕の心に

いつまでも散らない 真っ赤なバラが

◆バラが咲いた

マイク眞木が歌ったフォークソングとして有名ですが、NHKみんなのうたで放映され人気を博しました。1993年から、ロシア国立のある中学校の校歌に採用されていますが、それはひとりの日本語教師が学生時代にこの曲を気に入ったためと言われています。日本語原詞、生前に浜口自らが訳した英語歌詞、日本語教師が訳したロシア語歌詞の三種が歌われているそうです。

参考資料

日本童謡唱歌全集 足羽彰編

童謡・唱歌の世界 金田一春彦著

高野辰之記念館

おぼろ月夜の館 斑山文庫 他

音楽に親しみ若い頃はギタリストとして活動し戦後は進駐軍等でバンド活動をしていたことは有名です。外国の音楽を演奏していましたが、その後、日本の曲を創作することこそが重要だ、と認識するようになり、作詞作曲を手掛け自らも歌い手となって数多くの曲を世に生み出しました。

(20200420)

和田弘とマヒナスターズ、ビリーバンバン、西郷輝彦、にしきのあきらなど自らの弟子をスターに育て上げるなど人材育成にも才能を発揮しました。

星のフラメンコ、涙くんさよなら、空に太陽がある限り、人生いろいろ、夜霧を今夜もありがとうなど、私たちが知っている曲は数多くあります。